

# 編集後記

●コロナ禍以降、心の癒しのために小桜インコを飼い始めました。自宅からクリニックまで徒歩5分、小さなケージにいていっしょに出勤しています。お天気がいい日には外界のスズメや野鳥とお互い鳴きあい、鳥どうしの会話が成り立っているようです。平穏平和な日々がこれからも続きますように。

(高橋さなみ)

●コロナ禍で酒量が増え、肝臓が弱ってしまいましたorz。6週間の禁酒の後、GPTの回復を確認し、ちょっと呑んだら悪化し、再び禁酒生活。ノンアルコール製品をかたっぱしから試しています。ワイン、ビール、酎ハイ、日本酒と最近は味も納得の出来です。これを機会にまずはリセットして節制していく所存です。

(天野隆文)

●コロナが5類に移行して感染対策は個人の判断となり、日常が戻って参りました。皆様にお目にかかれる機会が増え喜ばしい限りですが、まだ予断を許さないという説もあります。私事ですが年中風邪をひいております。しかしコロナ禍の3年間はマスク、手洗いのおかげか一度もひいておりません。(江川ゆり)

●長い長いトンネルから抜けて、やっと日常が戻りつつありますが、外来には風邪っぴきの子どもやおとなが多いです。新年会、歓送会など折々の集まりもできるようになり、海外オケの来日公演もめじろ押しですが、気を緩め過ぎないように心がけています。

(岡澤ひろみ)

●今年はラグビーのW杯の年でもあり、大学の後輩に誘われ20年ぶりにラグビーをしました。晴天天下で天然芝という最高の環境でしたが、試合早々に右下腿の肉離れで離脱。翌日の外来はなんとか行ったものの迷惑をかけました。気持ちは10代のつもりでも、身体は正直でした。体力強化に努めます。(加藤正幸)

●「ランドマーカータワーが火災」の宣伝にひかれて『劇場版TOKYO MER』をみました。見慣れた場所がそこここに出てきて(昨夏、みなとみらいの道路を半日封鎖してロケしてました)不思議な気分になり、難解な長い医学用語をかまない俳優陣に脱帽。劇的すぎるのはフィクションなので……。そしてまわりの病院も大忙しのはず、などという想像してしまいました。

(河原由恵)

●ゴールデンウィーク中、3年ぶりに地域の神輿が復活しました。元気な木遣りをきくことができ、近所のみんなで喜びあいました。

(根岸 晶)

●初めまして。今年度より、編集委員を拝命しました。開業して早2年、ライフワークバランスについて考えるようになりました。診療でお忙しい皆様が、ほっこりとした時間をもてるような、日常診療に役立つ神皮となるよう、微力ながらお手伝いさせていただきます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。(花田美穂)

●紫陽花がたっぷりの雨を吸って大輪の花を咲かせる季節を迎えました。私は子どものころから紫陽花が咲くと誕生日が来るのが嬉しいこともあって、この日ごとに色合いが変わる不思議な花が大好きです。友人から「額は主役かわき役か」という洒落た句とともに、紫陽花の絵手紙をもらい、食卓に飾っています。

(馬場直子)

●富士スピードウェイで24時間レースを観戦した。最近の大改修でコースと観客席が離れ、昔のようにコース横の金網に張り付いて目の前を疾走する車を体で感じることはできない。それでも全力で走る車の姿は美しい。スピードとエンジン音、排気音が一体となって五感を刺激する。電動化が進む未来でもこの感動を味わえるのだろうか。

(原 尚道)

●コロナ禍も平常化し、街も賑わってきました。クリニック内でマスクをしないう方も多くなりましたが、医療機関ではマスクはすべきとの意見もあり対応に迷っています。皆さんはどうされているのでしょうか。

(眞鍋泰明)

●父が好きだった沈丁花が満開だった花を落とし、梅、桃、桜が次々に花びらを散らせ、そして寒い風や雨に耐えながら冬を越したすみれやパンジーも終わりを告げました。今、日々草やペチュニアをたくさん植える季節になりました。これから夏の厳しい暑さを越えて秋までは、これらの花々が心を慰めてくれます。小さな庭に四季を感じる毎日です。

(山川有子)

●横浜の歴史・発展は文明開化その物であり、良く記録されていて、大変興味深いです。自分の職場の年報など初めて読みましたが、大事な事が書いてあるんですね。県立歴史博物館蔵の浮世絵や、吉田初三郎の鳥瞰図、県立図書館の古地図、映画『ハマのドン』『華のスミカ』もお勧めです。

(渡邊 憲)

## 神 皮 〈第30号〉

2023年7月2日発行

発行 神奈川県皮膚科医会

発行人 川口博史

〒236-0021 横浜市金沢区泥亀2-8-12

金沢皮膚科

電話 045-791-5510

制作 かまくら春秋社

### ■表紙のことは「小田原城」

小田原城は、日本100名城にも選ばれている神奈川県で最も有名な名城です。初めて築かれたのは15世紀中ごろと考えられ、幕末まで関東地方防衛の要衝として、また諸大名の居城として重要な役割を担っていました。明治3年に廃城となったため建物は解体。さらに石垣も関東大震災で崩壊してしまいました。その後、昭和35年に天守閣が復興され、他の城門も復元され現在に至ります。青空が晴れ渡ったある休日、私は母と息子の3人で小田原城を訪れました。息子がすっかり腰や足が悪くなった母の手を引きながら、300本の桜が咲き誇る小田原城址公園を歩きました。真っ白なお城と満開の見事な桜。平和で幸福なひとときの風景は、今も私の脳裏に焼き付いています。(山川有子)